

1. 意見

別添のとおり

天塩川水系河川整備計画(原案)に関する意見書

平成19年2月9日
下川町 神尾一幸

私は、[REDACTED]で[REDACTED]を担当しています。

天塩川流域水系河川整備計画の原案中、特にサンルダム建設については下川町全体が、非常に関心と期待が高いところです。

昨年下川町では5月の融雪と、10月の低気圧により、2度の洪水が発生しました。

この洪水での農業被害は、主に農地の冠水被害となっていますが、その被害の公的な表示方法は、その面積と作物の被害額により表示されています。

農地の冠水被害を端的に「Oha」と発表されても、多くの方は漠然としたイメージしか湧かないと思いますが、その現場は実に悲惨で恐怖すら覚えるものです。

本来であれば、豊かな実りを育むはずの農地が水の底に沈んでいる様は、農家ならずとも、「残念」の一言でしか表せません。

河川の氾濫はその土地を豊かにする、と、昔学校で習いましたが、事実ではあると思いますが、現代の農業に照らし合わせると、マイナス要因が優ります。

現在の農業の基本は、「土づくり」であり、化学肥料などにあまり頼らず、有機肥料、堆肥を中心とした土づくりが進められています。堆肥を活用した土づくりは、一両日で成果が現れるものではなく、継続的な施肥を繰り返すことで、数年後に効果が現れ、「良質な表土」ができあがります。

この、努力の成果である「表土」を、洪水は一瞬で台無しにしてしまいます。

加えて、農作業の支障となる砂利を運んだり、場合によっては病害虫の原因まで運んでくる事もあると聞いています。

また、作物被害についてですが、被害状況把握、被害額の算定などは私の公務の一つですが、内容的には非常に事務的なもので、被害のあった作物の面積、そこから生産される作物の数量を算定し、北海道が示す作物ごとの被害単価を掛けて被害額を算出するものです。

残念なことに、この事務を何度か経験しましたが、そのたびに、被害にあった農家の方々の無念さは、このような数値でしか表せないのがと憤りを感じるどころです。

昨年5月の洪水では、作物の作付前だったので、作物被害は牧草しかカウントされていません。

昨年7月に名寄市で開催された「サンルダム建設促進市民大会」の中で日本気象協会 主任技師 祐川弘一 氏の講演で、近年の気象の傾向としては、総降雨量はあまり変わらないが、短時間で集中した雨が降るとおっしゃっていました。

近年、と言うよりつい最近の雨の降り方に異常を感じ、まさにその通りと共感したのは、私だけではないと思います。

本州と違い梅雨のないこの地域でも、長雨が続くことはありましたが、いわゆる熱帯地域の「スコール」のような、短時間に滝のような雨が降ることは、極めて希なことだったと思いますが、近年では、まさに「バケツをひっくり返したような」雨が何度も降っています。

また、同じ大会では、中名寄地区の農業者の方から過去の洪水によって、貴重な人命が失われたとのお話もありました。

私は先ほど洪水現場に恐怖を感じると言いましたが、まさに氾濫しようとする川の姿、濁流の轟音は、直接見た人にしか解らないでしょう。

そして、その付近に住む方々がどれだけの不安に駆られるか、安易な言葉では言い表す事は出来ません。

地球温暖化の影響など、大きな規模での見解は私には解りませんが、今年の暖冬を含め、気候の変化は確実に実感できるところにきています。

昨年、そして過去の洪水被害の教訓を生かし、地域の農業、そして住民の財産と生命を危険にさらさないよう、出来る限りの対策を事前に講じるべきではないでしょうか。

ちなみに、洪水対策として「遊水地」という手法もあるようですが、農地を遊水地とすることは、私が先程述べましたとおり、農地、そして表土がいかに大切な財産か理解せず、農家の努力を軽く考えているような対策には、私個人としては賛成できません。

最後ですが、サンル地区には[REDACTED]が運営する「町営サンル牧場」があります。

この牧場では、年間約500頭の牛を酪農家から預かり、放牧で育成しています。毎年5月末頃から入牧しますが、丁度その時期は山菜取りや魚釣りの時期と重なり、ごく一部の方とは思いますが、牛の出入り口に車を止めたり、牧場内にゴミを放置するなど、マナーの悪い方に困っています。

過去には、牛を逃がさないようにする「パラ線」を切って、牧場内を通過し、川縁まで車で入る釣り人もいたそうですが、これは立派な器物破損です。

また、そこまで悪質ではありませんが、牧場内を徒歩で横断する方もいるようですが、場合によっては牛の病気の発生、蔓延の原因ともなりかねませんので、パラ線で区切られている草地は、牛を逃がさないだけでなく、むやみに立ち入らないで頂きたい意味を含んでいますので、この場を借りてお願いしたいと思います。

サンル地区の雄大な自然と一体となり、自然をより身近に感じるスポットとして、そして地域住民の財産と生命を守る役割を担う、サンルダムの本体工事早期着工と完成をお願いし、公述とさせていただきます。